

観察舎休館/アサギマダラの旅、サシバの渡り ISSN 2185-632X

すずがも通信

認定NPO法人 行徳野鳥観察舎友の会 会報 第216号

2016年2月1日 発行



イラスト:み

行徳野鳥観察舎友の会「すずがも通信」

インターンの活動報告

江戸前干潟研究学校 (12月5・6日)

2日目(12/6)の活動内容を報告させていただきます。

今日は、今年最後の江戸前干潟研究学校がありました。毎月一度2日間行われ、自分は今月で4度目の参加でした。

寒い時期に入ってから初めての干潟学校でした。幸いにも晴れて風もあまりなく、いつも通り魚も多くかかりました。

参加者は少なめ?の10人程度で、午前は保護区内の定置網の引き上げ、午後はソーティング作業(魚の同定・カウントに加え、マハゼの大きさを計測)。仕掛け、回収した定置網は、町田池・トビハゼルート・旧淡水池・長靴池・海水側竹内ヶ原出口水路・百合ヶ浜の6箇所。

多かったものは魚類ではマハゼ・サッパ、甲殻類ではシラタエビ・チチュウカイミドリガニ。春夏に多かったカタクチイワシ、テナガエビは随分減りました。少なめながらチチブ、ニクハゼ、ヨシノボリなどもありました。スズキは30cmの小さめな個体が1匹、長靴池でウナギは獲れず。

チチュウカイミドリガニは抱卵している雌を確認(自分は初)。また、マハゼは恐らく今までで最大サイズの、164mmの個体を確認されました。

今年の江戸前干潟研究学校で確認された種は、魚類45種 甲殻類28種 不明含むで計91種とのことです。自分自身全く水生生物の知識はなかったので、この干潟学校で淡水～海水域に棲息する多くの生物に触れられたことは良い経験だったかもしれません。

CCC (クリスマス・コーモラント・カウント) (12月23日)

12月23日はCCC(クリスマス・コーモラント・カウント)と呼ばれるカワウ一斉調査がありました。自分は初参加です。内容は朝6:30-8:30に観察舎をメインに、そこから荒川付近までの各地点のカワウのカウントです。また午後には、世界のウ類と題した公演とカワウねぐら入りカウント、クリスマス会もありました。

自分は船堀橋のカウントに加わりました。はじめは数羽がばらばら飛んできて通り過ぎていくだけでしたが、7:30過ぎに400羽ほどの大群が来て川に着水しました。数分後には次々飛び始め、列になり上流に向かい飛行していきました。がつつりカウントできて良かったです。

全体の結果報告によると、地図上に線を引くようにカワウの大群が北上していく様子が観測されたようです。また観察舎からは7時過ぎに1000羽以上のカワウの移動がみられたとのこと。

午後のカワウ公演では、世界のカワウについて教えていただきました。世界には日本のウとは違い、特徴的な冠羽を持ったものや、飛べない種(ガラバゴスコバネウ)もいるのですね～。あと欧州の一部地域でウを食べているというのも驚きました。それほどおいしくはないらしいですが食べてみたいです。

夕方のカワウねぐら入り観察は保護区内でカワウをカウントしました。巣も多く確認されました。

クリスマス会も楽しかったです。プレゼント交換では自分は可愛い鳥のマスコットを貰いました。ありがとうございます、とても嬉しいです。(両川 昂己)

暖冬ですね・・・ ～常勤スタッフによる保護区・観察舎情報～

観察舎が休館になってしまいましたが保護区管理は変わらず進行中。12月は冬に珍しく雨が多く、何故か毎週木金に降るといふ謎のサイクル。降雨後に急激に気温が上がる日も。年末からやっと晴天続きになりましたが、今度は気温が高く日中は汗ばむぐらいの陽気です。結局霜も氷も見ないままの年越しとなりました。

○保護区

今年度の浄化池は3系列の植生コントロールを実施中。3系列は2012年の震災改修以来本格的に植生コントロールをするのは初めてですが、1・2段目は夏場に水のついた状態でトラクターがけができるようになったこともあり、既にだいぶ植生は抑えられています。アシ、ガマを残した部分と改修しなくて大丈夫だった下流部分、田の字池の一部も今年は手を付ける予定でいますが、12月の定期的な雨で作業がしばらく滞ってしまいました。年末からの晴天で一気に進めています。次の雨までにどこまで進めるか。

この他クズが繁茂し放題だった築山～田の字池観察壁の観察路沿いを大幅に草刈り。築山からの見通しが良くなりました。ボランティアデーでは周辺緑地の管理通路(カワウコロニー沿い)に堆積した落葉かきを実施。長年堆積した一部は土化しており、夏場通路が草で覆われる一因になっていたのもその改善を目論んでの作業です。参加者は精力的で、全体の約半分まで進みました。お疲れさまでした。

鳥の方はヘラサギがまだまだ滞在中。ウラギク湿地や導流堤で見られています。時々行方不明になることもあります。たまに竹内ヶ原など保護区湿地内に居ることも。カモ類は飛来当初に比べ数が少なくなりましたが、1月に入ってからホオジロガモが見られるようになりました。導流堤ではユリカモメ、セグロカモメ群に混じってただカモメも入っています。浄化池ではセグロセキレイの他タヒバリも入っており、ツグミやシメ、オオジュリンといった冬の小鳥も多くは見られるようになりました。

猛禽類は相変わらず多く最近では丸浜川の餌場周辺にノスリやトビがうろうろ。ノスリに至っては導流堤のカモメたちを襲おうとして失敗、カモメが落としていった魚のアラを食べていたとか。色々大丈夫なんだろうか・・・

カワウコロニーは白髪鷯も増えディスプレイや巣作りを始めている場所も増えてきました。コントロール区間でのもめ合いがまた始まります。

○観察舎ほか

CCC2015は保護区から出たあらかたのカワウは追えたようです。しめ飾り作りは100名の参加者で賑わい、観察舎最終日は560名をこえる来館者となりました。元日は数年振りの快晴で、観察舎が使えないのがとても残念でした。

○今後予定

観察会は引き続き実施します。江戸前干潟研究学校も多少形は変わりますが、新年度から再開予定。しばらくは観察舎も友の会もばたばたとしているかと思いますが、応援・ご支援どうぞよろしくお願いいたします。

文：野長瀬・山口 友の会 Facebook もよろしく <https://www.facebook.com/npoFGBO>

行徳野鳥観察舎の休館について

昨年末に緊急ハガキでお知らせいたしましたように、観察舎は平成27年12月28日をもって無期限休館に入りました。県が実施した耐震調査の結果が安全基準を下回り、利用の安全が図れないとの理由です。また、県の行政改革審議会では観察舎を「廃止」する方向で検討しています。※

① 観察舎が古い施設で、耐震性に問題が発生してしまったのは抗いようがありませんが、友の会は、行徳鳥獣保護区の自然を愛する「拠点」が、今後も何等かのかたちで必要だと考えていますし、どんな方法があるか模索していきたいと思います。その旨をしたための要望書を千葉県知事あてに提出しました。(次ページ)

② 友の会はこれまで、千葉県から観察舎の運営委託を受けてきましたし、現在も保護区や野鳥病院の運営委託を続けています。委託費もいただいています。したがって、友の会として千葉県に向けた署名活動を興すことはできない立場にあると考えます。

※すでに国内の多くの方々が観察舎再生にむけた署名を始めておられます。地元行徳でも「行徳野鳥観察舎を愛する者一同」という有志の方々が活動をしています。

(清水 大悟)

※平成28年1月19日、平成27年度第3回千葉県行政改革審議会が開催されました。行徳野鳥観察舎については、「建物は解体する方向が望ましい」「県の公の施設としては廃止せざるを得ない」その上で「跡地については県と市川市とで協議検討をして欲しい」旨の提案がなされました。財政的に厳しく存続は難しいが、観察舎の必要性に理解を示す意見も出され、利用者の多くを占める地元の市川市との協議を求めたものです。

審議は今後も継続され、県知事への答申は28年度に持ち越される見込みとのことです。

また、市川市の久保博市長は、千葉県に観察舎の存続を求める要望書を提出すること、市として県に協力する考えがあることを表明しています。

千葉県知事
森田 健作 様

平成28年1月5日

認定NPO法人行徳野鳥観察舎友の会

電話

理事長 東 良 一

要望書

日頃より弊会の活動にご理解ご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

このたびの急遽の休館のご決定には、弊社としても大変驚いておりますが、諸方面の調整にご尽力いただきました事、重ねて感謝申し上げます。

私どもとしては、引き続き行う行徳鳥獣保護区での観察会などのイベントや、野鳥病院事業につきまして、全力で運営してまいりたい所存です。

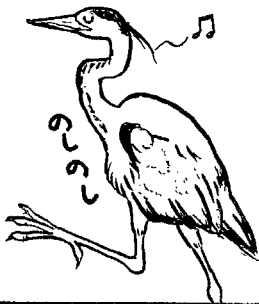
また、観察舎につきましては、建物の老朽化と利用者の安全確保の不安という課題は私どもだけの力では抗いがたく、やむを得ないものと認識しております。

しかし、行徳鳥獣保護区という国内有数の自然環境とその景観の素晴らしさを子どもたちをはじめ多くの人に伝え、今の時代の要請に応え、千葉県の誇りとなるような拠点の創出は必要と考えており、弊社も微力ながらその実現に努めていきたいと考えております。

今冬も、生態系の頂点にたつ猛禽類や国際的にも希少なヘラサギが飛来しており、千葉県内外からお客様が絶えませんでした。皆様にこのような素晴らしい景観を楽しんでいただく事は大きな意義があることで、休館後も何らかの形でできないものかと思案しております。この点についても、ぜひご協力いただきたく、お願い申し上げます。

アオサギ

最も大きい種類
のサギです

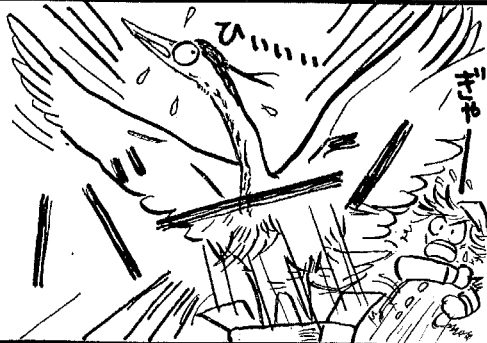


アオサギは
日本のサギのなかまでは

開けてみないと何の鳥か
わからないことがある



なので小さな箱に
入れられてきたりすると



伸縮自在



お互いとても
びっくり
します



野鳥病院新聞リニューアル！

野鳥病院新聞は今年から記事の部分を病院スタッフで持ち回ることになりました。フラミンゴ先生のお話が楽しみだった方もたくさんいると思いますが、安心してください、4コマ漫画はありますよ。これから新聞も試行錯誤して作っていきますので安定しない部分があると思いますが、どうぞ温かく見守っていただけるとありがたいです。

ご長寿さんたちの訃報

ご長寿の鳥たちがお亡くなりになる事が多かったこと、観察舎無期限休館、悲しい事が続きました。今年で10年目に突入していた隻眼の女王ツミ 10年選手だったアイドルのチョウゲンボウ 青くん 負けっぱなしの喧嘩屋 10年キジバト 灰さん 虚弱体質ながら5年も生きたツバメの橙ちゃん よくがんばりました。天国でみんなによろしくね。

野鳥病院では、それぞれカラーテープを使って足環を作り個体識別をしているので、複数いる鳥には色の名前が付いています。野鳥病院にお越しの際には、お気に入りの子を探してみてくださいね。

編集後記

12月は共に野鳥病院を切り盛りしてきたスタッフが急逝された事もあり、とてもつらい時期でした。

いつも明るくて楽しい彼女に心配をかけないように、スタッフ一同がんばりたいと思います！

観察舎は無期限休館になっちゃったけど、ひとまず野鳥病院・保護区観察会は継続されているので、まだ希望はあるのだ！

皆様のさらなるご支援、どうぞよろしくお願い致します！

(いわさき)

朗報！保護鳥の生存確認！



昨年7月10日に海岸での調査中に倒れている所を保護されたシロチドリ♀、点滴や強制給餌の甲斐もあり、2週間後にはすっかり元気になったので脚に青とオレンジ色のカラーリングも付けて保護した海岸で放鳥しました。

元気に飛んでいきましたが、その後の調査でも観察されず心配していたところ、12月10日に観察情報が入りました！元気に生きていてくれてほんとによかった！

保護した海岸の近くで観察されていたので、今年の夏は子育て中の彼女に出会えたら嬉しいですね(^_^)

※シロチドリにカラーリングを装着して、繁殖状況や行動範囲について調査をしています、カラーリングのついたシロチドリを見かけたらバードリサーチの守屋さん XXXXXXXXXX へお問い合わせ下さい。

野鳥病院新聞

2016年(平成28年)

11月～12月号

第41号

担当：いわさき

海鳥ビックリ箱！？



カンムリ様はいつも
おかんむりです！

野鳥病院では、ケガをした鳥はまず「治療室」と呼ばれている部屋で、1羽ずつ段ボールに入れて治療をしています。

箱を開けてビックリ！？クチバシは出てくる、プープー文句は言われるはで、ほんとに病人(鳥)なの！？

正体は首から胸にかけてひどい裂傷を負ったカンムリカイツブリと、胸に穴が空いているシロエリオオハムの2羽でした。ひどい怪我ながら元気はあって、箱を開けようものなら飛びかかってくるほど…。餌を足すだけなのにスタッフの手は傷だらけに。カンムリカイツブリの傷はとても良くなったので、撥水性が悪くなってしまった羽を洗浄したら放鳥です！がんばれ！(洗浄するスタッフも)

治療が終わり元気になった鳥は広い部屋へ移動して、異種様々な仲間たちと過ごしてもらいます。カンムリカイツブリは広い部屋へ移り、走り回る貴重な姿をお客さんに見せてくれています。

川上正敬

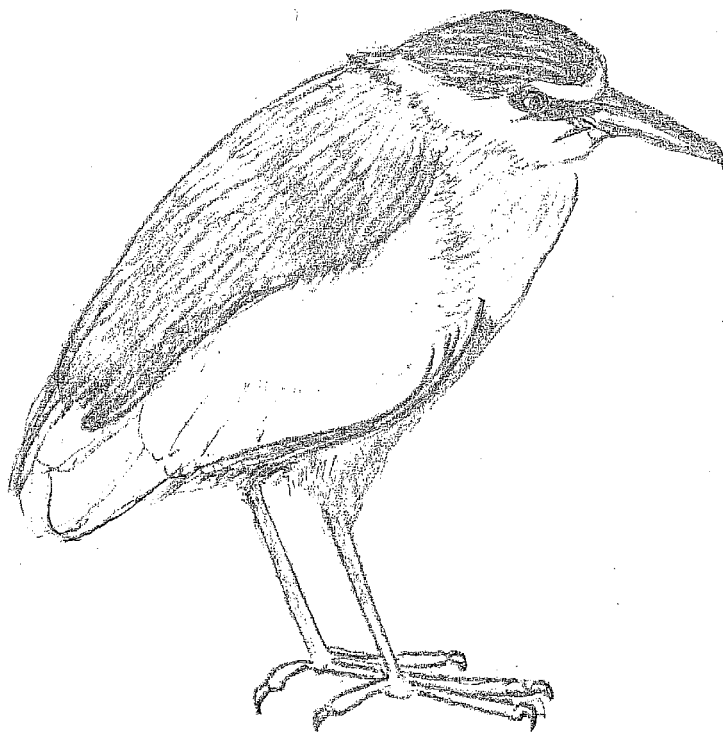
《今季のトピックス》

《今季のトピックス》

1. 冬の小鳥の代表ツグミが11月下旬に姿を見せました。例年に比べて今年は少々遅めでした。
2. 保護区では珍しい、ホオジロガモ、ヘラサギが見られました。
3. 今年も猛禽類が多いです。トビは保護区ではあまり見られない種でしたが今年は増えている様子です。
4. 毎冬、観察舎前にたくさん集まるオナガガモですが、少なかった昨年よりさらに減っています。
5. カワウの繁殖期が始まりました。白髪が目立つようになり12月中旬ころからディスプレイする姿や声が急に増えました。

[illegible]

No.	科名	種名	11/1	11/9	11/16	11/22	11/28	12/6	12/14	12/21	12/28
46	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ウグイス科	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	メジロ科	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	ムクドリ科	ムクドリ				○			○	○	○
50	ヒタキ科	シロハラ		○							
51		アカハラ	○				○		○	○	
52		ツグミ					○	○	○	○	○
53		ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○		○	○
54	スズメ科	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56		セグロセキレイ			○	○				○	
57		タヒバリ								○	
58	アトリ科	カワラヒワ			○					○	
59		ベニマシコ			○	○	○				○
60	ホオジロ科	ホオジロ	○		○	○	○	○	○	○	
61		アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62		オオジュリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	ハト科 (外来種)	ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
種数			43	43	44	42	40	38	47	45	41



ゴイサギ(成鳥)
イラスト：み

インターン活動報告 子どもたちの体験の「入口」

12月25日、久しぶりの観察舎研修日になりました。

作業は、朝夕の禽舎お世話（中部屋）および1時～3時半まで保護区産古代米の脱穀作業。

1ヶ月も出られないと、禽舎の様相が大きく変わり、その顔触れに悲喜交々。

管理人小屋前で脱穀作業中に、訪れた親子づれが「後ろにたたずんでいたもので、どうぞそばで見てください、体験してくださいとお誘いしました。

子どもたちは、無邪気に唐箕の取っ手をブンブン回したり、籾を手にいっぱい掬ってはしゃぐばかりです。

この道具が何なのか。どうやって動いているのか、この真っ黒のツブツブは何か。古代米？ どこでとれるの？ 保護区ってどこ？ どうしてそこに田んぼがあるの？

スタッフの山口さんが、子どもたちにわかりやすく話してくださっています。

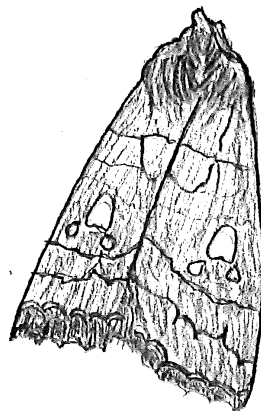
子どもたちがダイレクトにというより、お母さん方が興味を持ってくださいました。そして「体験させてくださってありがとう、またぜひ来ます」と言ってくださいました。

私は、観察舎の大きな役目がこういうことなのだと、インターン前半を終えて強く感じています。

子どもたちは、観察舎に来て知識を得るというより、なんらかの体験を持ちます。望遠鏡で見知らぬ鳥を見つけたり、鳥の翼の実物を触ったり、ケガをして飛べなくなった鳥たちを見たり。その体験を通して、次の体験のきっかけとなったり、「好きなこと」「大事なこと」を見つけたり、考えたりする手掛かりとなります。

「あの時、あんな体験をしたな、あれどこでだっけ？」成長してから、思い出してもらえたら、もしかしたら自然環境保全とか、野生鳥獣保護とか、そういったことになにがしか興味を持つ大人になってくれるかもしれません。

（中村 麻衣）



ミツボシキリカガ

イラスト：み

台湾水環境教育会議 (11月27日～29日)に参加して

(台湾 関渡自然公園)

風邪気味の中、台湾に到着した日と翌日は肌寒くて南国とは思えない陽気でした。関渡自然公園のスタッフも急に寒くなったとの事。後半は暑くなり、体調も楽になりました。

会議は、初日に韓国順天市の順天湾、香港から WWF 香港、日本谷津、行徳の発表がありました、日本からは、谷津の芝原さん、葛西の大原さん、僕の3名が参加でした。翌日は、台湾台江市の湿地、官田市のレンカク保護区の発表。午後は、アメリカ発祥の水について遊びながら学ぶ方法の運営の仕方と実際に体を動かしました。

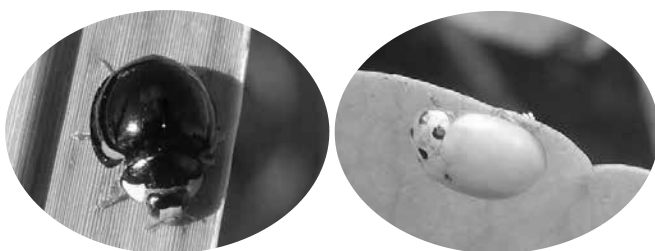
僕と芝原さん、韓国の方は別コースのバードウォッチングツアーに参加。ボランティアの方に公園内をご案内いただきました。途中、いかにも作業しに行く胴長の一団に遭遇、胴長をはかせてもらいたくなって、聞いてみたら OK とのことのでそのまま、約1時間程度水路に繁茂してしまったマコモ、アシを除去し、水の流れを確保する管理作業に参加させていただきました。管理作業担当のスタッフお二人（びんさんという方）は、プロレスラーのような体格でボランティアさんが15名参加していました。年配の女性が日本語が少しできる方で、何かとお世話いただきました。作業時間によって表彰されるようで、僕の作業時間もいただきますよ、と笑っていました。ボランティアは、ふらっと来て誰でも参加では無いようで、登録制だそうです。管理作業は、企業のボランティア活動が主体で組み込まれているようです。

3日目の朝は、やや遅めの開始との事でしたので、日本チームは、一駅前で下車し、関渡自然公園の外側を一周して会場へ。オウチュウやハウチワドリ、ベニバトなどなど、様々な鳥、シオマネキやムツゴロウを堪能。とてもとても楽しい時間でした。もう少し、3人でいきもの捜しをしたかった。ほとんどの方が、散歩、ランニング、サイクリング(サイクリングロードになっているので)を楽しんでいましたが、マングローブ側では、釣り人もちらほら。カン釣りも見られました。また、大学生っぽい4名チームの鳥見人に会いました。3日目は、関渡自然公園の環境教育部門の関渡で取り組んでいる、親子対象にした水田管理作業を通じて、食に関すること、農業についても学べるようにゲームも含めた内容でした。実際にゲームもやりましたが、皆で楽しめました。関渡自然公園と WWF 香港とで、交換レンジャーを行っているようで今関渡に来ている、ケイティさんの香港での環境教育の発表がありました。午後は関渡の管理作業の話、見学会がありました。ところどころ、行徳の風景と同じに感じる場面がたくさんありました。話に聞いていた水牛を使つての管理作業や外来種との攻防など、また、カパイロハッカが捕食されていた痕を観察したり、時間が足りませんでした。

今回ご招待いただき参加した感想ですが、各地で各々の場所で共通するのは、その場所が愛されるように、工夫して頑張っていることがよくわかりました。鳥や自然環境を保全することは勿論ですが、地域の人たちや地域産業をも巻き込んでいかないと持続的には難しくなってしまうのかなと思いました。そして、谷津の芝原さん、葛西の大原さんとも考え方や深く話ができてとても意義深い旅でした。

みなさまに感謝です。ありがとうございました。

(佐藤達夫)



秋の虫たち

左上：ダンダラテントウ 右上：キイロテントウ 下：ヒメジュウジナガカメムシ



秋の鳥たち

モズ

セグロセキレイ

10月30日、保護区稲刈りに参加しました。

何年かぶりの稲刈り作業、とても楽しかったです。

保護区内では、下池でヘラサギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タシギ、ジョウビタキに遭遇。猛禽の食痕では、大判の羽軸が数本まとめて喰い切られている様子を観察！

ユリカモメ、スズガモの群舞が、夕映えに美しかったです。(中村 麻衣)

屋久島サシバの渡り調査 2015 ～謎のサシバ群～

スタッフの山口です。今年も屋久島でのサシバを中心としたタカの渡り調査を行ってきましたので報告します。

屋久島は九州南端の佐多岬からおよそ 60 km 南西にある島で、世界遺産であることが有名ですがタカ類の渡りルートにもなっています。屋久島を通過するタカを中心とするサシバは日本で繁殖し、東南アジアで越冬するため春と秋にそれぞれ渡りを行います。こちらでは秋の渡りに合わせ毎年 10 月に調査を行っています。

今年の調査は 10 月 8 日～13 日の 6 日間。今回も島の南部（尾之間）と南西部（栗生）の 2 地点で観察を行いました。毎年渡りの時期になると各地で調査が行われ、その速報は「タカの渡り全国ネットワーク」<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html> HP 上で見ることができます。その中で屋久島に最も近い調査場所にあるのが宮崎の金御岳でこちらも調査時の参考にしてはいるのですが、それによるとこちら調査前の 10 月 2～4 日にかけて約 10,000 羽が既に渡っていきおり 1 番のピークを逃してしまったようでした。それでも天気予報はしばらく晴天続きだしもう 1 ピークあるに違いないと思い現地入り。

ところが前半 10 月 8～10 日は曇りで時々雨が降るあいにくの天気。この辺は屋久島ならではの天気。島内でも場所によって晴れていたり雲が発生しやすかったりとばらつきがありこの時は奄美・沖縄で天気が悪かった影響か南部の天気が不安定になっていました。

翌 11 日も栗生で調査をしていましたがこの日もあまり天気は良くなく日中見られた渡りも少数のみ。今日このまま出ないで調査終了かと思いつつ周りを見回していると何故か南の海上に大きなサシバの群れを発見。群れは屋久島に向かって飛んできておりしかもどんどん後続が続いてきます。最終的に合計 1000 羽近くになりほとんどが島内の谷などへ降りて行きました。南の天候が悪い場合一度島から離れても途中で引き返すのかこういった動きが見られることもあります。これほど大きな動きは見たことがなく、しかもこちらでは出ていないので尾之間の方でたくさん出ていてそちらから回ってきたのかと思っていましたが尾之間でも渡りはほとんど見られていませんでした。また、その日は宮崎でも数十羽しか渡っていなかったようで、となるとあの群れはいったいどこから来たものなのか……。

考えられるのは鹿児島島の薩摩半島・大隅半島で溜まっていた群れがどこの島も経由せず一気に南下しようとしたものの途中で諦めてその時最寄りだった屋久島に降りて来たぐらいでしょうか。もちろんこちらの見落としという可能性もありますがあれだけの大群を見落とすのは考えにくいですし、今回の最大の謎です。

ちなみにその島に降りて行った群れは翌 12 日朝早い時間に再び南へと渡っていったようです。12 日、13 日は南も天気が回復しいくつか大きな渡りもこ見られ、最終的に調査期間中の合計では南の尾之間で約 1,400 羽、南西の栗生では上記の群れ以外で約 1,000 羽の渡りが見られました。

今回ピークは外してしまいましたが興味深い動きが見られました。毎年いろいろ発見があるので飽きません。とはいえサシバの群れが川のように流れていく大きな渡りを来年は見たいものです。

（山口 誠）

屋久島やまがら便り

その36

旅する蝶の魅力

我が家の庭にも様々な蝶が訪れます。かわいいツマベニチョウにモンキアゲハ、ナガサキアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、あといろいろ…(名前がわかんないっ)。なかでもひらひらと舞うように飛び、遠く旅をするというアサギマダラが一番好きです。11月9日にアサギマダラのマーキング調査の講習会があり、実際どのようにして行うのか知りたくて参加してきました。当日はあいにくの雨のため、室内でレクチャーを受けることに。講師は鹿児島県立博物館・昆虫担当の金井賢一さん。2003年から屋久島で実際に調査をされている久保田さんのお話も聞くことができました。



道端に咲くヒヨドリバナ

アサギマダラの分布は、国内では北海道～南西諸島、国外ではヒマラヤ～東南アジアと広く、成虫は暑さが苦手ですが、幼虫の食草は寒いところでは育たないため、春は南から北へ、秋には北から南へと移動しながら繁殖します。マーキング調査は'80年代に始められたものの一時は下火になり、14～15年前からまた盛んになってきました。屋久島では主に春と秋に飛来し、越冬するものも少数いるようです。

春はハンダマ(スイゼンジナ)やムラサキカッコウアザミ、秋はヒヨドリバナ、ツワブキ、フジバカマ、シロノセンダンが主な訪花ですが、どちらかというと春の捕獲数は少なく、ハンダマの開花が年々早くなっていることも一因かもしれません。事実我が家でも今年は1月から咲いています。再捕獲の記録は、これまでに遠く北は宮城県(1250km、90日)、南は台湾(1280km、19日)だそうで、調査を通じて遠く離れた人と交流できるのが何より楽しい、と久保田さんは仰っていました。寿命は1年も持たないのではないかとわれ、屋久島での再捕獲の記録は12月～4月の5カ月が最長だそうです。

次に事前に捕獲された蝶を使って、実際にマーキングを体験しました。羽を閉じた状態でそっと持ち、白い部分に黒の極細フェルトペンで日付、場所、マークした人のイニシャル、個体番号を書き込みます。アサギマダラは羽を閉じて横にするととてもおとなしく、鱗粉も少ないのでとてもマーキング向き(?)なのだとか。書く位置は厳密には決まっていないようですが、漢字は使わず、わかりやすくはっきりとが基本です。NT(山形・のっぺ山荘)、AKB(高知・秋葉山。48じゃないよ!)などが特に有名。同じように記録用紙にも記入します。性別や鮮度、その日の天候なども記録しておきます。放すときは植物の葉の上などに置いて自然に飛び立たせます。私も「YAKU1109 MIZ1」と記入して放しました。なんと参加者が放した蝶1頭がすぐにイソヒヨドリに捕獲され食べられてしまうというハプニングがありました。幼虫が食べるガガイモ科の植物はアルカロイドという有毒物質を含み、成虫もその毒(死ぬほどではないがマズい)を体内に蓄えているため、普通鳥は食べないらしいのですが、若



い経験不足の鳥だったのでしょ。

雨も止んだので、ヒヨドリバナが群生しているフィールドに出てみることになりました。行ってみるとさっそくあちらこちらにアサギマダラの姿が。それでも天候のためか全然少ない方なのだそうです。アサギマダラはなぜか、白いタオルをブンブン振り回すと寄ってくる性質があるそうで、金井先生が実演してくださるとあら不思議！本当に引き付けられるように寄ってきました。理由はよくわかっていないそうです。何頭か捕獲されましたが、ほとんどが既に久保田さんがマークした再捕獲個体でした。久保田さん、恐るべし！多いときは3000頭以上捕獲したシーズンもあるとか。不思議な魅力がいっぱいのアサギマダラ。ますます好きになりそうです。

年中虫の声が聞かれるうちの庭ですが、このところさすがに蝶の姿は見なくなりました。それでも時がたてば必ず約束の春は来る。昨年末、突然の無期休館で冬の時代を迎えた観察舎にも、きっと春が来ると信じて。屋久島からもずっと応援しています！（2016年1月9日・瀬戸山瑞香）

新入会員 どうぞよろしく願いいたします！

追悼 青葉木菟（あおばずく）さん

本誌で連載「うたのなかの鳥たち」を執筆されていた「青葉木菟（あおばずく）」さんが平成27年12月10日、急逝されました。観察舎でスタッフとして活躍しながら、古代から現代までさまざまな「うた」に登場する鳥たちを斬新な視点で紹介し、本誌にとっても大変ユニークで貴重な連載でした。

青葉木菟（あおばずく）さん、本当にありがとうございました。

ご冥福をお祈りいたします。（編集部 清水 大悟）

ニャーのくりごと

俺は猫のジュンペイ。

冬も折り返し点をすぎた。

陽だまりの暖かさは、あいつの温もりに少し似ている気がする。

文 町田 安男

絵 清水 大悟

本来なら、ここでおめでとうございます、今年もよろしくとなる訳だが、去年暮れに起こった“コト”がまだ頭の中に一杯で食欲が湧かない。

オイラの弟のエイジローが突然亡くなったのだ。

5時間位前まで、俺と一緒に背中をなぜられていたし、寝つくのも同時なのに、ヒゲが異変に気がついた時にはもう冷たくなりかかっていた。

全くと云っていいほど前兆が無かったので、見つけたヒゲも長いこと果敢として状況がのみこめなかったようだ。そして、オイラはただ周りを回っていた。朝までヒゲが抱いて寝た。

タオルを敷いてあったがまったく生きているようで、半眼に開いた目は澄んで、どこか遠くを見ているよう。

今にも起きあがり、いつもの金切り声でまわりをビクッとさせそう。

ヒゲが10:00頃お花を買ってきて遺体を飾り、大好きだったアヒルのピッピちゃんとともに火葬に出した。

何ともあっけない幕切れだったが、難病にかかって長い間苦しむことが無かったのがせめてもの慰め、と思っても何ともやり切れないのだ。

エイと二人でここに来て以来、片時もはなれたことがなかった一方が消えてしまうことになるとは・・・

オイラとは万事正反対、あの消え入るような声と物陰から半身をのぞかせている姿が何ともエイらしかったのだが今では。

誰でもいずれは通らなければならない道だとはわかっているもののやはり思い出せば、隠れていそうな所をくまなくのぞいて見回るオイラをみたヒゲがポツリと漏らした。

「エイの分も長生きしな」

しめっぱい話はこの位にして明るい話をとっていた矢先に、ヒゲが只事ならぬ“コト”を話し始めた。

何でも地震対策とかで観察舎を目途がつくまで休館にすると県が通達してきたらしい。

先々の事については何の目算もたっていないのにただ閉めるということだけとは、そこに県の目論見がチラチラ見え隠れするようだ！

いかにもお役人の考えそうなことだ。あそこを日常利用してきた人達のことなぞは屁とも思わず、ただ上から云われたことだけを忠犬ながら順守し、あとは定年退職といった全く胃に穴があきそうな日常勤務を乗り切るには人知れない苦勞も有るのだろうか！

もうひとつ、観察舎の管理を市川市が降りた時点で、友の会が何にも？対策を考えなかったのが問題を最悪の事態までいかせたのかもしれない。

病舎はいまのままだと云うが、区内の立ち入り管理などにも当然、お金は出さずに口を出してくることは目に見えている。

こちら側としても、大町のように公園化するのを指をくわえて見ているか、それとももっとボランティアを優遇？整備して今の形を拡大踏襲するとか対策を立てて対抗する姿勢を明確にする必要があるのは誰の目にも当然のことだろうと、オイラは偉そうなことをつい口走ってしまったが、ヒゲに物事はそんな単純な“コト”ではすまないと軽くいなされた。



今年は年末年始が常ならぬおだやかな毎日が続き、暖かく、ことに元日はすばらしくTVで見た富士山のご来光には目を見張った。

近年あんなすばらしいシーンはほとんどお目にかけられなかったものだったし、加えて無風状態だったので画像がシャープだった。

元日、二日、三日と続いて絶好の日和が3年ぶりに続いたので、梅が咲いた所もあり、メダカも時々姿を見せたので、蛙ドモが冬眠から早く目覚めるのではないかと、いささか心配になってきた。

気のせいか桜のツボミがふくらんできたようだし、今シーズンは路の藁が例年より早く顔を出すかも・・・

昨年のニホンアカガエルも産卵にそなえてソロソロ目覚めの準備中だろうし、来月後半からは区内が生き活きと若返る。人間も自然のパーツ、新緑に心が浮き浮きとはずむ最高のシーズンが開幕する。

オイラたちの仲間も、恋のシーズン。残念ながらオイラは宦官。窓から外をのぞき見するのが関の山。

冬の鳥が帰郷したあとの保護区内は、緑のジャングルが再生、草いきれが充満、田おこしも始まって、水の中の世界も一変。ニホンアマガエルの声が聞こえる頃ともなるとヒゲは外で過ごす時間が倍増、頓着無しで又一步、浜紙に近づく。薄くなった頭も同然！

オイラも話だけではなく体感したいのはやまやまだが、生まれてこのかた土の上を歩いたことがないぞ。

ことしはサル年、日本には猫年はないが、外国のどこかでは猫年が有るそうだ。

この十二支の年は、世界が騒がしくなるのが通例だとも云われている。ほんと、大発会で株価は大中の値下を記録。サウジアラビアがシーア派の聖職者を処刑したのが発端で、イランの首都テヘランのサウジアラビア大使館が襲撃され、国交断絶。

6日午前には北朝鮮が水爆実験をしたニュースが世界を駆け回った。

いやはや何ともすさまじい年初ではあったが、オイラの食欲は回復しつつあるし、背中のゴリゴリをヒゲに心配される回数も少なくなったのが何より。

ヒゲの腹の出具合はとどまることを知らず、目に見えてひどくなった。

去年の測定から一年たらずで2kgも増えたらしい。

医者の指示で、ビールを1ℓに減らし、朝食のごはんは茶碗一杯、それを守った揚句の結果がこれだと、ヒゲは即座にやめてしまった。

全く間食をしないヒゲだが、あれでオヤツをたらふく喰べていたらどうなることやら・・・

それにしてもヒゲはトシに似合わずちっともじっとしているところが見られない。いつも動き回っている。しかも腰が痛いと言っていながらだから！

オイラも近頃は「ネコ」をきめこむ時間が多くなったから、少しは見習おうとは思うのだが！

2015年 11・12月 活動報告

市川市・千葉県等、他団体主催行事含む。定例観察会は除く

- ・11/7(土)やちよかん祭り
- ・11/17(火)しんはま写真展第2回(～12/27) ・ 千葉商大市民講座(野長瀬)
- ・11/14(土)NPO さとやま：市野谷自然公園での池造成について
- ・11/16(月)コブハクチョウ剥製解体：葛西鳥類園吉田さん
- ・11/17(火)耐震診断結果とカワウ調査について：県自然保護課
- ・11/19(木)学校利用打合せ(樋口)：塩浜学園
- ・11/27(金)～11/29(日)台湾水環境教育会議(佐藤達)：関渡自然公園
- ・12/4(金)野学校講演(蓮尾)
- ・12/10(木)学校利用打合せ(樋口)：富美浜小
- ・12/7(月)望遠鏡メンテナンス・施設利用について打合せ
観察舎休館について：県自然保護課
- ・12/14(月)県自然保護課：休館関連・11月報告検査
- ・12/16(水)県議視察：ししくら登氏
- ・12/17(木)学校訪問(樋口)：浦安見明川中
- ・12/22(火)自然保護課打合わせ(東 佐藤)

団体利用・視察等

- ・11/17(火)富貴島小3年90名・NHK学園市川オープンスクール10名
株式会社舞浜倶楽部13名
- ・11/18(水)千葉シニア自然大学専科16名(保護区案内)
- ・11/26(木)稲荷木小3年59名(保護区案内)
- ・11/27(土)藤良苑17名
- ・11/29(日)都立野川公園緑の愛護ボランティアの会19名(保護区案内)
東邦大理学部教職課程授業32名(保護区・禽舎案内)
- ・12/9(水)日本野鳥の会千葉県40名(保護区案内) ・中和倉ハイキング(11名)
- ・12/10(木)千葉シニア自然大学本科27名
- ・12/17(木)福栄小4年生・観察舎・保護区見学(43名)
- ・1/6(水)キッズデュオ(4名)

研修・実習受入等

- ・11/5(木)市川四中職場体験(2名) 北方小3年38名
- ・11/6(金)市川四中職場体験(2名)
- ・11/18(水)大洲中職員フォローアップ研修(2名)
- ・11/30(月)・12/1(火)堀江中職場体験(2名)

取材対応など(いずれも休館関連)

- ・12/22(火)産経新聞
- ・12/24(木)、26(土)読売新聞
- ・12/27(日)市川よみうり・行徳新聞・毎日新聞

企画行事等

- ・12/5(土)・6(日)江戸前干潟研究学校 5日11名・6日12名参加。
- ・12/19(土)公開講座「鳥インフルエンザ」9名
- ・12/23(水・祝)CCC2015 公開講座「海外のウ」26名
- ・12/26(土)公開講座しめ飾り作り100名

北風

蓮尾純子

「耐震診断の結果を受けて、野鳥観察舎は12月28日から無期休館」

千葉県の記事は12月10日。働いている私たちが知らされたのは12月7日。目下無期限の休館中です。お客様がいない観察舎はなんとも寒々としておびしいかぎり。10月25日からずっと滞在中のヘラサギ若鳥もいてくれるし、タカ類は複数種・複数個体が連日出現しているし、そして観察舎前の道路にはカメラマンさんをはじめ、たいてい何人かの方々が鳥を見ておられるけれど・・・

友の会とは別組織の「行徳野鳥観察舎を愛する者一同」として、発起人代表の三木信行さんといっしょに12月19日から署名運動を始めています。昨1月17日は初の街頭署名で行徳駅と南行徳駅で30名ほどが「ご協力お願いしまーす」。自転車整理のおじさま方や駅ビルのお店の方々も署名してくださって「がんばってね」。304名のご署名が集まりました。寒かったけれどお天気がもってほんとうによかった。

明日19日には千葉県の行政改革審議会で観察舎を含めた3施設についての集中審議が行われるとのこと。本日は第二回目の署名簿提出をします。12月24日の第一回提出時に355名だったご署名は、昨日で6411名に達しました。そば降る冷たい雨の中、重たい署名簿を持って県庁に出向く三木さんには申し訳ないけど、私はぬくぬくとこたつテレビの休日。猫いっぱい。久々にせんたくバサミのタヌキやハクビシンを作ろうかな。

12月のわが家はなんのканのとふだんにも増して気ぜわしかった。27日の最終開館日、今の観察舎の建物にお客様を迎えられる最終日とあって、ボランティアの方々が前日に豚汁を作ってくださいました。私は例によってお汁粉を。当日は

1時間につき15分ずつ蓮尾純子独演会をやってしまいましたよ。これまで人前でお話ししたり書いたりしていない話題にしようと、幼時の思い出話から、嘉彪との出会いから、恥ずかしげもなく好き勝手を。最後は歌で締めようと思ったのだけど、あまり協調してくれる人がいなくて。せっかくオリジナルのちごがに音頭から、「明日があるさ」の替え歌「野鳥観察舎仕事人の歌」まで日の目を見せたのですけどね。閉館間際に黒田さや子様も来てくださって、なつかしい方々にたくさんお会いしました。

23日のCCC2015も農工大学野生動物研究会が中心に無事に。25日は長男孫に機種選びから購入からソフトやデータ移植まで（いちおう謝礼つきで）やってもらって、新しいパソコンを自分へのクリスマスプレゼントに。とっても賢くて動作が早くて言うことなし、なんだけど、キータッチやキーの位置、まだ慣れません。大みそかの夜、これまで（鳥をよく捕ってきたほかは）なんの問題もなかった賢くて健康な三毛ふじこがおしっこが出たいのに出ないという様子で、もう真っ青。とうとう夜中近くに大淵先生にメールでSOS。投薬を指示していただき、軽い膀胱炎で雌猫は尿道閉塞はないから、と言われてひと安心。おかげさまで投薬期間もすぎ、はつらつとして元気いっぱいになりました。ただし、昔の悪い癖が戻って、私のおふとんの上で何度も粗相を。

大波乱含みの年初。あちこちからのご署名送付にせつせとお礼状を出しています。よい方向に動きますように。みなさま風邪など召しませぬように。

☆本文中にもありますが、執筆者は、個人的に署名活動に行っておられます。友の会の組織として行っているものではありませんが、このコーナーの主旨から、自由にお書きいただきました。（編集部）

どうもありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

E-mail : tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

江戸川河川敷観察メモ

1/3 (日) に新浜探鳥会ロングコースに該当する江戸川河川敷に観察に行ってまいりました。

- ウミネコはこの時期はなかなか会わないのですが、旧江戸川合流部で1個体休憩中。
- 行徳橋付近グラウンドでは野球ではなくクリケットが行われていました。初めて見たかも。
- 正月で干潟の利用者・人圧が少なく、行徳橋下流のワンコ運動場芝生あたりの右岸側干潟にムナグロ8個体とハマシギ数個体がいっしょにいました。また、新行徳橋下流の干潟には右岸側にミヤコドリ3個体が来ていました。いずれも釣りや貝掘りで人が入っていることが多く、なかなかシギ・チドリが入らない場所で、改めて人圧の影響、一般的な人と自然との触れ合いの活動の影響を感じさせられました（私は自分自身が釣りをする人ですので必ずしも釣りの悪口という意味ではなくて）。ミヤコドリ、ハマシギは東西線下流右岸にも1個体ずつ。
- ホオジロガモは昼食場所あたりで♂1、幼2。
- 一番多かったカモはホシハジロで、おそらく500個体くらい。
- オオジュリン、スズメ、メジロはヨシの茎をつついていますが、ビワコカタカイガラモドキを食っているかまでは確認できず。スズメはヨシの穂もついているようでした。
- ヤマトオサガニがたくさん出ていました。暖かすぎですね（笑）。
- 妙典橋工事は次に架ける桁と手延べを結合しようとしているようでした。
- トイレ周辺堤防はあいかわらず工事中で、下の道から登ってたどり着くほうが無難です。
- ネコたちは個体識別していないのでよくわかりませんが、皆さん元気ようです（謎）。

（本間 幸治）

上：ムナグロとハマシギ 左下：ミヤコドリ 右下：オオジュリン



おお！ ネコがネズミを咥えておる！

12月29日、北の丸公園に散歩に行ったんですけど、カラスが12、3羽、群れて騒いでいるので、見たらネコがネズミを咥えてるんですね。カラスがうるさいみたいで、茂みの中に入りましたけど。

これってモビング？違うよねえ。

猫が頭にきてネズミを放置するのを期待したんでしょうか。

それにしても猫が鼠を咥えてるのって、数十年ぶりに見ました。

猫が鳥や鼠を捕るのは本能だと思いますけど、まあ、離島に放されて野生化している猫と家で飼われている猫との「ギラギラ度」は違うと思いますけどね。

それにしても都内ってネコ、タヌキ、ハクビシン、アライグマなど肉食獣御用達のバイキングレストランですね。かなりの個体密度の。あ、カラスを忘れてはいけませんな。まあ、タヌキは疥癬でいい状態ではないですけど。

それでよくあれだけ鳥がいますねえ。エナガも都市鳥化したし、今年、新宿御苑でキビタキの巣立ち雛が撮影されたし。

ハクビシンは電線で移動する位だから木の上はお手の物だから鳥の卵や雛を食べてると思うんですけど、そういう話を聞かないのは何故？

もちろん果実は好きですけど（オオカミも結構（甘い）果実が好物みたいだし）、一般的に雑食動物って肉類は御馳走ですよ。（金森 光伸）

年会費納入のお願い

いつも友の会を応援していただき、まことにありがとうございます。

まだ年会費をご納入いただいていない方、ぜひ今後も友の会を応援してください。

どうぞよろしくお願いいたします。（行き違いの際はご容赦ください）

なお、前号でもお知らせ致しておりますが、前年度と会費が変更になっております。

賛助会費：3,000円以上

普通会費：2,000円

電子会費：1,000円

ジュニア会費：500円

法人・団体会費：10,000円以上

※電子会員：会報を電子メールでお送りいたします。紙の印刷物はお送りしません。

なお、電子会員以外の会員も希望により（紙媒体が不要な方など）電子のみの提供とすることが可能です。

12/12 午前中、達夫さんが調査のため捕まえたユリカモメで、羽の数え方や種類、嘴や尾などの測定、採血を見させてもらいました。その後放鳥させてもらい、元気よく飛んでいくのを見て嬉しかったです。

仮設禽舎のスズメで、自分の嘴が首あたりに刺さっちゃっているのを見つけました。どうしてそんなことになってしまったのか不思議でしたが、大淵先生に一針縫ってもらいました。

検便(直接法、浮遊法)を教えてもらいました。学校で習ったのにいろいろと忘れていて、すぐく復習になりました。

12/20、達夫さんとパン、アラ取りに行きました。パンが本当にたくさんあって驚きました!アラは、どれを持って帰っていいのかの判断が難しかったです。トラックに、ロープでバケツが動かないようにする固定の仕方を教わったのですが、近くにいたラーメン屋さんの人も一緒に教えてくれました(笑)

オオミズナギドリに皮下輸液をしました。ネズミでしかやったことなかったのですが、鳥は皮膚をつまめないで難しかったです。

ユリカモメの餌やりの時に、ノスリが来てセグロカモメを捕まえました。その後セグロカモメに逃げられたのですが、ノスリのキョトンとした顔が面白かったです(笑) (インターン 山本 碧)



行事のご案内 どなたでも参加できます。冬の水辺は風が冷たく寒いです。戸外での行事は暖かい服装でご参加下さい。

☆毎月第4土曜日はボランティアデーです。

13時から16時ごろまでの予定です。観察舎スタッフといっしょに保護区の管理作業をしてみませんか? 参加ご希望の方は、事前に行徳野鳥観察舎までお問い合わせ下さい(電話047-397-9046)

☆三番瀬自然観察会(船橋) 2月7日(日) 3月6日(日)

集合: 船橋海浜公園バス停 10時 解散: 14時ごろ。交通: 京成船橋駅南口(JR船橋駅南口より徒歩2分)

より船橋海浜公園行きバス乗車、終点下車。またはJR京葉線二俣新町駅より徒歩25分(バスもあり)

持物: 弁当、飲み物、帽子、雨具、長靴(または濡れてもいい靴)、観察用具など 参加費: 200円

主催: 千葉県野鳥の会 問合せ: 田久保()。

干潟を渡る風は冷たいけれど、鳥たちは、北国へと旅立つ季節も間近です。暖かい服装でご参加を。

保護区の観察会のご案内

どなたでもご自由に参加できます。

保護区の中には、以下の観察会などで入ることができます。多少汚れてもよい靴で。冬の水辺は風が冷たく寒いです。
暖かい服装でご参加ください。（トイレ、水飲み設備はありません。）

☆定例園内観察会（毎週日曜、祝日）

集合：行徳野鳥観察舎前 13時30分 解散：15時30分ごろ。＊雨天中止

問い合わせ：野鳥観察舎（047-397-9046） 協賛：行徳野鳥観察舎友の会

枯れた草原と緑の松や照葉樹。鳥のほかにも、カマキリの卵など、冬を越す命を観察してみましょう。

☆定例新浜観察会（毎月第2日曜日）

2月14日（日）、3月13日（日）、4月10日（日）

集合：地下鉄東西線 行徳駅前（改札を出て左前方の広場） 10時

2コースに分かれます。「新浜保護区コース」は保護区の中をゆっくり回り、13時30分ごろ解散。「放水路経由コース」は、バスで江戸川放水路へ、その後保護区を巡り、15時30分ごろ解散。解散場所はいずれも観察舎前。

主催：行徳野鳥観察舎友の会、日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会。 問合せ：東 良一（ ）

参加費：200円（18歳以下は無料） 持物：昼食、飲物、帽子、放水路経由コースはバス代400円（子供200円）

様々な小鳥たちや猛禽類が楽しみ。導流堤のセグロカモメに珍しい種類がまじること。

☆夕暮れ観察会（毎月第4土曜日）

2月27日（土）、3月26日（土）、4月23日（土）

集合：行徳野鳥観察舎前 16時30分 解散：18時30分ごろ。

問い合わせ：野鳥観察舎（047-397-9046） ＊小雨決行

早春の夕暮れを歩きます。3月にはコチドリやコウモリも見られるかもしれません。

☆平日観察会

2月4日（木）、 3月3日（木）、 4月7日（木）

集合：行徳野鳥観察舎前 10時 解散：正午ごろ ＊雨天決行

問い合わせ：野鳥観察舎（047-397-9046）

地面にはりついた野草の葉が少しずつ立ち上がり、木の花芽も膨らんでいく。春よ来い。

編集後記

☆観察舎は無期限休館中ですが、それぞれが、できることをやりつつ今年も春をむかえたい。（D）

すずがも通信 No. 216(隔月発行)

2 0 1 6 年 2 月 1 日 発 行

発 行 所 認 定 特 定 非 営 利 活 動 法 人 行 徳 野 鳥 観 察 舎 友 の 会

E-mail tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

年会費 賛助3000円以上、普通2000円、電子1000円、ジュニア（18歳以下）500円、法人・団体10000円以上

郵便振替 行徳野鳥観察舎友の会 02220-4-6129

URL <http://homepage2.nifty.com/suzugamo/top.html>

編 集 清水大悟、若林直樹、西方明雄、岩崎加奈子（庶務）

印 刷 株式会社 オフィス ティースカイ

[千葉県行徳野鳥観察舎（休館中）]